MESSAGE ごあいさつ

石多エドワード　プロフィール

1947年9月21日大阪市に生まれる。
父はフィリピンで出生した日本人、母はスペイン系フィリピン人。
1965年3月 大阪府立高津高校卒業。
1970年3月　武蔵野音楽大学声楽科卒業。在学中、作曲を平井康三郎他に師事。
1976年7月　「東京オペラ協会」の前身、「グループ潮」第1回公演。
以後、現在まで代表・芸術監督として下記の仕事を制作。また東京オペラ協会の姉妹団体である、オペラプラザ長崎、オペラプラザ福岡、オペラプラザ愛媛、オペラプラザ岡山、オペラプラザ関西、オペラプラザ新宿の芸術監督も務める。

◎荒川区、豊島区、新宿区等で市民参加型のオペラ公演を全国に先がけて上演。

◎欧州の古典作品を、現代の視点から再構成した公演を続ける。
○ビゼーの「カルメン」を東京山谷の夢物語に、またダンスオペラに。
○モーツァルトの「魔笛」を、「魔法の笛と鈴」とミュージカル化し、日本各地で150回以上の公演。
○モーツァルトの「フィガロの結婚」を歌舞伎オペラにして、やはり日本各地で120回の公演。
○ベートーベンの第九交響曲、バッハのマタイ受難曲それぞれのオペラ版を日本ではじめて上演。

◎「国際交流はオペラで!」と考え、日本から世界向けのオペラを創作・公演。
○「忘れられた少年―天正遣欧少年使節」柴田南雄作曲、石多エドワード台本・総監督。
○日中合作歌劇「蓬莱の国―徐福伝説」呂遠作曲、遊仙三郎の筆名で台本・総監督。
○日比合作オペラ「高山右近―剣か愛か」マヌエル・マランバ作曲、石多エドワード台本。
○日本―スペイン合作オペラ「ザビエル」イニゴ・カサリ作曲、加賀乙彦原作、石多エドワード台本。

◎オリジナルの曲を中心に全国で40回のリサイタルを開催。

◎1979年～1999年　帝京大学にて非常勤講師として「音楽教育法」「音楽実技」「現代芸術論」「現代アメリカ芸術論」「音楽」を教授。

◎「石多エドワード歌曲集」を2000年10月再版。

◎歌劇「天空の町」～別子銅山と伊庭貞剛～ を愛媛県新居浜市実行委員会の委嘱により創作。

◎子供からお年寄りまで、健常者も障がい者も共に楽しめるユニバーサルデザインオペラを全国に展開中。

※公演回数は2013年6月現在

東京オペラ協会は1976年の創立以来、人間賛歌、自然賛歌をテーマとし、オペラのあり方を考え続け、新しい道を求め続けてまいりました。ご支援くださる全国の方々とここまで歩んで来ることが出来て、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

思い返せばこの40年近い活動は、迷走する人間社会にオペラで具体的に何が出来るか? と問い続けた歴史でもありましたが、 それはあまりに大きすぎる課題でありながら、私が問うべき唯一のことでもあるように思えていました。

不安を抱きストレスを抱え込んだ現代人にとっては、オペラで楽しめればそれで充分、それで生き生きと毎日を過ごせる――。確かにそれでいいのかも知れません。しかし、私はどうしても気になります。現代人には憩が、ストレス発散がどうしてこんなに必要になってしまったのだろう?その根本原因こそが問題ではないだろうか?自然界の生き物にはそんなものが必要だろうか?原始人はどうだったのだろう?――現代人を深く勇気づけ、世界中を明るく元気にしてゆける活動をしたい。

当会はそんな思いを抱きながら、互いに関連する二つの柱を見出しました。
一つは、国際平和を願いながら世界各国との国際交流をオペラですること、
もう一つは、ユニバーサルデザインの考え方で、障がいを持つ人であれ、高齢者であれ、幼い子供であれ、誰もが参加できて、その可能性を拓き育てる場を作り続けること、この二つです。
二つとも、冒頭の人間賛歌、自然賛歌をテーマとすることから生まれたものです。

何千万円、何億円とかけた豪華絢爛たる舞台こそが当然のごとく最高のものであるかのような音楽界の風潮の中で、上記の姿勢による当会の自由なオペラ活動はあまりに違ったものでした。しかし、 真意を深くご理解いただける方々も確実に増え続け、その方たちとの出会いは、私たちをしっかりと勇気づけています。

たまゆらに煌めく私たちの命かも知れませんが、それゆえにこそ東京オペラ協会及び全国オペラプラザグループの活動は、人間賛歌、自然賛歌に捧げたいと思います。

いつの日か、どこかでお目にかかれることを祈りつつ――。

NPO法人　東京オペラ協会　代表　石多エドワード

「忘れられた少年」に祝福を、ローマ法皇に謁見

秋篠宮ご夫妻と「高山右近」公演後に

山田洋次監督とオペラ談義

徐福ゆかりの慈渓市長と

ポルトガル大統領と官邸にて

REPERTORY 公演レパートリー

東京オペラ協会は
1976年に「グループ潮（東京オペラ研究会の前身）」として設立。
1977年に「東京オペラ研究会」と改名。
1987年より「東京オペラ協会」として、更に
1997年より「NPO法人 東京オペラ協会」として全国展開。

そして現在、各地のオペラプラザの皆さんとともに以下のレパートリーを中心に公演活動に取り組んでいます。

歌劇「天空の町」～別子銅山と伊庭貞剛～

石多エドワード台本・作曲

別子全山を旧のあおあおとした姿にして之を自然にもどさなければならない―採掘精錬による煙害で荒れ果てた別子銅山を緑に還した男、伊庭貞剛。彼の優しくも堂々とした生き様を、子どもたちが元気に歌い踊りながら、美しいメロディで綴ります。

オペラ「忘れられた少年―天正遣欧少年使節」

柴田南雄作曲、石多エドワード台本

これまで国内外で134回の公演回数を誇るオペラで、ザビエル来日450周年を記念に改定されたもの。人それぞれの生き方を認め合おうという、世界平和がテーマの国際交流オペラ。

日中合作歌劇「蓬莱の国―始皇帝と徐福」

中国国家一級作曲家・呂遠と石多エドワードの合作

中国歌劇舞劇院と東京オペラ協会の共演により日中で巡演中。秦の始皇帝の命令により蓬莱の国に不老不死の仙薬を求め、3000人の童男童女と五穀に百工（最高の技術者たち）を伴い何百艘の船に乗ってやってきた徐福一行。不老不死の仙薬とは何だったのか? 地球の未来を問う壮大なオペラ。

日比合作オペラ「高山右近―剣か愛か」

マヌエル・マランバ作曲、加賀乙彦原作、石多エドワード台本

名高きキリシタン大名だった高山右近。彼はなぜ、戦うことをやめマニラに追放される道を自ら選んだのか?　アジア最古の大学であるサント・トーマス大学の教授で神父でもあったマヌエル・マランバ。彼の渾身の作曲による壮大なドラマです。

日本―スペイン合作オペラ「ザビエル」

イニゴ・カサリ作曲、加賀乙彦原作、石多エドワード台本

日本に初めてキリスト教を届けたと言われるフランシスコザビエル。彼が祈り続けたものは何だったのか、波乱万丈のザビエルの生涯を、彼の生地であるスペインはパンプローナの作曲家イニゴ・カサリが、まさにドラマティックな音楽で描きました。

※公演回数は2013年6月現在